

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人 ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘 A棟		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960-1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 11月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人尊重した暮らしができるように思いや意向の把握に努め生きがいをもって自分らしく自由にゆっくりのんびりと生活する事に取り組んでいます。職員が一人一人利用者様と生活を共にしていることを意識し居心地の良い生活が送れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周りは田んぼや地域特産のトマト栽培ビニールハウスに囲まれ、ゆったりと流れる時間の中で豊かな自然を感じることができる環境に立地している。ほとんどの職員が近隣で生活しており、利用者の家族や親戚とも馴染み深く、地域に根差した介護が実践されている。長く勤めている職員が多く、利用者の人柄や嗜好、保持している力をよく理解し、一人ひとりの尊厳を大切に守り、思いに寄り添いながら支援することができる。コロナ禍で透明カーテンや仕切り、減圧装置を設置するなど、利用者の命を守るために高い意識を保って対策を講じている。「住みなれた地域の中で、ゆっくりのんびり過ごせるように、お手伝いをさせていただきます」という理念が、ハード面にもソフト面にも反映されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は常に基本理念を確認できるように提示し共有しながら実践している。	「住みなれた地域の中でゆっくり、のんびり過ごせるよう」という理念に基づいて、地域密着型の介護を目指している。管理者は、利用者にとって安心できる環境を整えることが利用者本位の介護に繋がると考え、日頃から職員への意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、外出自粛が続き 利用者と地域の交流は難しい現状である。	ほとんどの利用者と職員が地元住民で、家族や親戚とも馴染み深い。事業所に独り住まいの高齢者の生活相談があり、関係機関と繋げることもある。次世代の福祉人材の育成を目指して、中高生の職場体験を受け入れている他、近隣の学校から持久走大会の招待状が届くなど、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や入居者希望家族などいつでも誰でもどんな形でもお役に立てるように支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を集って頂き定期的に運営推進会議をホーム内で行う予定だったがコロナウイルス感染予防の為文書による報告で意見を聞いている。	事業所は、コロナ禍以前は対面での運営推進会議を行っていたものの、コロナ禍以降はスタッフ会議の内容を運営推進会議録として書面で推進会議メンバーに報告し、書面会議としている。ただし意見の集約は図られておらず、双方向の会議にはなっていない。	書面報告の際に、事業所が課題と捉えていること等を伝え、利用者家族や推進会議メンバーから意見要望を求めるなどの手立てを講じ、双方向の意見交換を得る方策を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染予防の為、電話で相談したり助言を頂いている。	役場内にある包括支援センターとは、介護保険の申請や対象者の情報などの連絡を取っている。川棚佐見地区グループホーム協議会からのセミナーや交流会に参加している。行政からの助成金でコロナ対策の減圧器を購入することができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束会議を行い職員で意見を出し合い身体拘束をしないケアを努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月毎に事例検討会を行っている。利用者への言葉の掛け方や不穏な行動への対応等、心理面でのケアの在り方についても検討している。施設長は職員に向けてチェックリストを用いた振り返りの他、DVDを活用した研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のかかわりの中で職員同士実践の中で気づいたことは伝え合い話し合い虐待につながらないように意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々が必要時話し合いができるよう行政とのつながりを持ち支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際、コロナ禍で見学できない為、本人家族には不安のないよう十分に説明し納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見要望等は書面や電話等で納得説明している。	ほとんどの職員が地元であるため、家族とも親しく話すことができる関係であり、相談を受けている。コロナ禍では状況をみながら窓越しの面会や玄関での短時間の面会を行ったり、LINEのビデオ通話で様子を知らせ家族の不安軽減に努めている。けやき荘だよりを送っており、好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や必要な時は上司と直接話し合い伝える機会を設けている。	毎月ユニットごとのケース会議を行う他、日々の情報はミーティング時や申し送りノートに記して共有している。施設長は、職員からの有給休暇の希望は反映しており、個人的な相談にも乗っている。また、様子が気になる時には施設長から声を掛けて話を聞く等、働きやすい環境となるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々の希望公休や突発的な休みにも柔軟に対応してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で研修の参加はできてない状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等で回数は少ないが取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動や家族からの情報収集を行い職員で共有し不安なく安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安なこと、要望等を伺い安心していただけるよう努めている。定期的に状況報告も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや要望を聞きながらその人に合ったサービスが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野を把握し楽しく暮らしを共にできるよう洗濯たたみや裁縫など職員と共に行い生活を支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の着替えや不足しているものをお伝えし本人様との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接の面会ができないがリモート面会を取り入れ顔を見ながらの面会が可能になった。	コロナ禍に利用者の知人の訪問があり、窓越しに本人と面会している。家族から手紙が届いたり、利用者の誕生日には花やプレゼントが届いており、写真を撮ってけやき便りに掲載している。遠方の家族には、LINEビデオ通話が好評であるため、表情がよくわかるよう、画面の大きいタブレットを活用したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性を日頃から観察把握し職員で共有し席替えや声かけ合いながら良い関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも相談などがあればいつでも連絡して下さるようお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを主張できる方はその意向を大切にし困難な方は表情や言動を細かく観察し以降の把握に努めている。	利用者の思いはフェイスシートに記入している。自己表現が困難な場合は、表情から状況を読み取り支援に繋げている。難聴の利用者には耳元でゆっくりと話したり、筆談してコミュニケーションを図っている。自宅が気になる利用者には、車で一緒に見に出掛け安心できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況やこだわりを本人や家族から情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人にできる事、できてもしたくない事やりたくない事など日頃から利用者との会話を通じ初めての事もチャレンジして頂いてる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子や変化など課題を定期的にスタッフ会議で話し合い介護計画に反映している。	利用者家族の訪問時、電話連絡の折に本人の状況を伝え、家族からの要望を聞き取っている。スタッフ会議で利用者の現状を検討し、3ヶ月毎のプラン作成時の資料としている。ただし、プランとケアの連携、モニタリングの結果をプラン更新に反映させる仕組みまでには至っていない。	ケアプランの具体目標が日々のケアに繋がるよう、ケース記録の作成を期待したい。利用者の現状に即した見直しやケアに向けてチームでのプラン作成システムの構築が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録の他に特記すべき事項や体調の変化は個別に記録し情報共有し見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に合うように支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で直接の連携が難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を尊重しかかりつけ医との連携を取りながら家族本人の意向を踏まえ適切な医療を受けられるよう支援している。	以前は協力医を指定していたが、現在は本人・家族の意思を尊重し、かかりつけ医を継続して受診している。通院時には看護師や施設長が同行し、医療情報は家族に伝えている。夜間急変時は施設長に連絡が入り、状況に応じた対応を行っている。救急時には川棚医療センターにて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化は早目に看護師へ報連相を行い必要な際は適切迅速に治療ができる体制づくりをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後適切な対応が受けられるように病院側との情報提供を交換している。退院時サマリーを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から病院側と話し合い緊急時の対応を整えている。家族との話し合いも行い要望を把握している。	事業所は、看取りを行う方針であり、昨年度も看取り支援を行っている。重度化・終末期の方針については、早い段階で家族に説明し、同意を得ている。職員は、バイタル対応、酸素吸入等の研修を受けている。利用者の意向があれば個別に訪問看護を受けることができる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は素早く上司へ連絡しその指示に従い定期的に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月1回の避難訓練を実施し理解を深めている。消防署からの指導訓練も行い火災の点検も定期的に行っている。	毎月、火災や台風地震等、具体的な災害を想定して避難訓練を行っている。防災カーテン、防火扉を設置している。緊急時の地域連絡体制が整っており、警察や消防等関連機関の他、近隣の学校施設へも即座に連絡ができるようになっている。ただし、夜間の避難訓練が行われていない。	職員体制が手薄になる時間帯にどう動くか、具体的な計画作成を期待したい。夜間想定避難訓練の実施が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	歌人の人格を尊重し訪室時はノックし敬語を使うよう努めている。	事業所は、利用者の尊重に重きを置き、排泄記録の名前を伏せたり、リビングでの申し送りはインシヤルで行うなど配慮している。利用者と呼ぶ時は苗字にさん付けであり、個人情報の書類は所定の場所に保管している。また、本人が大切にしているものはそのままに置いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の希望や思いを感じ取り無理なく本人のペースで生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴レクレーションなど拒否があれば強制せず本人の意向に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室の方に来て頂いたり髪にブラシをかけられるよういつも傍にブラシを置いておくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に本日のメニューの説明をしたり食後の食器を集めて頂いたり台を拭いて頂いたりとさりげない支援につなげている。	職員の勤務によって調理を分担し、献立は職員が作成し施設長が確認している。本人の嗜好やアレルギー、キザミやお粥などの食事形態に配慮している。誕生日には寿司やケーキで祝っている。また正月は一人ずつ小さな重箱を準備しておせちを詰めており、雑煮や刺身で新年を祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態や栄養バランスを考え魚・肉を交互に取り入れ野菜接種に努めている。食事量水分量も記録し把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人に合わせて歯磨きやうがい等して頂いている。磨き残しは職員が手伝っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック表を活用しトイレでの排泄に心掛けている。排泄に関して落ち込んだり不快な気持ちにならないような言葉がけに努めている。	トイレは各ユニットに3箇所設置しており、職員が介助しながら本人が自身で排泄できるよう内部には手すりを数か所設置している。おむつ交換の回数も本人が安眠できるよう職員間で検討するとともに、家族の負担も考慮し、交換回数も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を職員で共有している。一人一人の特性や体質を共有し看護師とも相談しながら便のコントロールに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが一人一人の希望もあり健康状態やタイミングを見て声掛け工夫しながら支援している。	冬場の入浴は週2回としており、湯温は本人の好みに合わせて調節している。入浴拒否時は、声を掛ける職員を交代したり、時間を置いて声掛けしている。本人の様子を見て無理強いせず清拭や更衣で対応することもある。コロナ禍前は、足湯の温泉にも出掛けており、収束後には再開予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人状況に応じて安心して心地よく眠れる事ができるような言葉かけや雰囲気づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容がすぐ確認できるように服薬専用のファイルを見やすいところにおいて共有している。症状の変化等には看護師かかりつけ医院と相談連携し確認支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じて塗り絵や点つなぎの用紙を提供したり好みのテレビの視聴や好みの歌を歌って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出がなかなか難しい。天気の良い日は施設の周りを散歩したり季節の花を見て支援している。	現状のコロナ禍では、感染予防が最優先であるため以前のような外出は困難であるものの、3人程度で車中から案山子や花見の見物に出掛けている。また、玄関先のベンチに腰掛けて歌を歌ったり、室内から見える田んぼでは、田植えから稲刈りまでを見て楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談したうえで本人に希望があれば購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙はとても喜んでおられる。電話等も対応できる支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないよう配慮し季節の花を生けたり音楽を流したり自然な飾りつけで生活の場を崩さないように新聞や広告等を置いたりしている。	コロナ感染予防対策として、透明カーテンで仕切り、利用者と家族が玄関で面会する時の場所づくりなどを工夫している。共用空間は快適に整えられており、外出できない時にも季節を感じることができるよう、窓越しに景色や草花を眺められるよう職員の心遣いがみえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の思いのままに過ごしていただけるよう気の合う方を把握し適度な距離感を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や写真等を持ち込んで頂いており家族とも話をしながら配慮に努めている。	職員は、利用者の使い慣れた家具やお気に入りのインテリアを家族の協力を得て配し、心地よい居室となるよう工夫している。利用者によっては、自ら室内の配置を整えており、それぞれに個性がある居室となっている。職員は、朝から清掃し、都度消毒しており、清潔な環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるようリビング、廊下、手すり等に物を置かずトイレ等は利用者がわかりやすいように大きな文字で表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人 ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘 B棟		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960-1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念に基づいて、地域に密着した取り組みを行っている。老人会、婦人会、保育園等との連携も得ている。各入所者の尊厳を保持し能力に応じた自立した日常生活を営むことができるよう医療との連携を通じて支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議等で理念に基づいて実践できているか意見交換を行い介護サービスの質の向上を図る。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて地域との交流の機会を持たず、行事、イベント等も中止となり日常的な交流は難しかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍に伴い、地域の人々に向けての発信は難しく、運営推進会議は地域の方、行政を交えての開催はできなかった。定期的に施設の現状報告を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営す新会議の会差が行えなかったため、スタッフ会議で取り上げたサービスの実施、評価への取り組み状況等を書面にて報告を行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催日は書面にてホームの現状報告等の提出を行っている。介護認定の更新、区分変更などの行政担当者へ必要事項の伝達を行い協力関係を持つよう取り組んでいる。行政からのコロナ対策等は段階的に書面の送付があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三カ月に1回の身体拘束会議を実施し職員間での意見交換や事例を出しての話し合いを行い、日々の介護についての振り返りや身体拘束をしな取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心理的虐待や精神的虐待等の勉強会の実施やスタッフ会議や虐待防止会議において事例の検討を行い自身の振り返りと再認識を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者の入所があり福祉事務所との連携がとられスタッフ会議にて制度についての説明を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの理念や介護の方針など説明し契約内容においては詳細に説明を行い理解や納得が得られるように努めている。重度化、看取りについても内容の理解をして頂き状態の変化時は迅速な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話対応時に利用者の近況の説明を行うとともに、ご家族からの不安や要望などを聞き取りを行い業務に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り等会議を通し自由に提案が行うことができる。事案によっては代表者や管理者は検討され改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制は家族の事情を配慮され働きやすい職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の情報の提供や資格を取る職員への勤務調整が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が定期的開催され、コロナ禍においてはリモート会議が行われた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族がホーム見学や生活の様子など見て頂き、身近に感じてもらうよう取り組んでいる。不安や困りごとなど話しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人や家族が困っていることや要望等に添えるようなサービスが提供できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の不安や困りごとなど把握しサービスの利用で本人や家族が不安なく日々の生活を送れるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本にができる事に目を向け実践してもらったり、少しお手伝いすることで達成できることを共に取り組んでいる。関わりをもつことにより家族のような関係性を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の生活の様子を電話やお便り等で報告し、家族の思い要望を聞き利用者と共に支える事への関係性を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内ではあるが、顔なじみの方が交流ができるよう棟の往来をほかったり合同での行事など開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居心地の良い空間を各々過ごしていただけるよう座席を工夫したり孤立感がないように場所を提供したり、職員が関わりを持ち支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院やリハビリ施設へ転院された利用者の家族へ経過を伺うことで相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や人生観、価値観など理解しホームでの生活を充実できるよう希望、意向を重視している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取った生活歴の把握と現在のサービス利用での不安や困りごとなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの一日の流れを把握し、どんな場面で不安や困りごとが起きているのか、本人の有する力は何があるのか把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の様子を共有し、本人や家族からの要望を取り入れモニタリング、カンファレンスでの意見交換を行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック、食事、排せつ状況の記録を行い、不調の気づき、言動や行動面などの変化をケース記録に残し申し送り等で、情報の共有を行っている。実践や計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍での面会はパーティションの利用や窓越しでの面会、タブレットでのテレビ電話などで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事への参加は制限され慰問の受け入れもできなかったが、これまで交流のあった保育園から手作りプレゼントがあった。中学生の職場体験は玄関にて研修が行われ、節分の豆まき行事へ庭先で参加してもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで受診されてきた委員に継続して受診を続け、医師や家族と連携して医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックや体調不良等は看護師に報告し、受診の有無など相談を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族や医療機関へ病状の経過の把握に努めている。認知症状の悪化がみられる場合は医療機関や家族と相談して退院に向けて対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には前もって家族に要望や意向を聞き入れ、経過に伴いケアの方法をスタッフで共有し、また医療関係との連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生、応急処置等は研修を受け対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害に向けた避難訓練を利用者を交えて月に1回実施している。消防署や業者の協力を得て定期的に消火訓練を実施した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した言葉かけやさり気ない支援ができるよう努め、利用者の意向を最優先に考える対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねせずに希望や思いを発言できるように働きかけ、利用者が選択しやすいように配慮したり、表情などで自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分など踏まえ得意なこと、興味があられることに取り組んで頂くように支援を行い利用者の希望に添えるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし、本人の好む服装や身だしなみを提供できるよう、タンス内の整理や季節に応じた衣替えを行っている。定期的なカットや整容で清潔保持に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて野菜の皮むき等のごしらえを一緒に行ったり、後片付けをして頂いている。利用者に合わせて食事の形態を工夫したり、持ちやすい器やスプーンを準備している。手作りおやつはパンケーキを焼いてもらいデコレーションをして頂き作る楽し		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録を行い水分不足の方へはお茶以外の飲み物やゼリーなどで対応している。季節の野菜や果物を献立に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	コップや歯ブラシを準備して利用者の能力に合わせうがいやの促しや磨きなおしの支援を行っている。義歯の取り外しを頻繁にある方は保管をし、食事の時に義歯を装着してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はご自分で行って頂くよう定時での声掛けをしたり、排せつ記録を見ながら誘導や交換の支援をしている。利用者のしぐさや言動など観察しながら速やかにトイレ誘導を行い汚染を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食物繊維の多い食材や乳製品を取入れ便秘予防の対応を行っている。便秘を繰り返される方は処方されている薬で調整を行っている。レクリエーションでは無理のない運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康チェックや本人の気分に合わせて入浴の支援をしている。シャワー浴、足浴清拭など本人の状況に応じて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや作業などで適度な活動をして頂いている。居室の休憩等は本人のペースで自由に取られている。室内の温度調整を行い寝具は清潔な物を用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の服薬内容を説明書や申し送り記録で確認している。錠剤での服薬が難しい方は薬剤師に相談し形状の変更をしたり、服薬ゼリーを用いて確実な与薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じて洗濯たたみや洗濯干し、縫物など役割や分担を持っていただくよう支援している。塗り絵や張り絵など得意とする創作活動へ参加されている。子供のころ食べた懐かしいおやつを準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により行動の制限があったので外出の機会は減少したが、感染対策のもと町内のドライブやお弁当を食され楽しんで頂いた。施設周辺の散歩等できる範囲で季節感を味わって頂けるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物に出る機会は作れなかった。利用者と広告やパンフレットを見ることで欲しい服や食べたいものなど要望を聞いて一応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生祝や行事等でお花や品物が届いた時にはお礼の電話で交流できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	創作された貼り絵や作品、写真など展示し、季節の行事の飾りつけを行っている。居室の入り口やトイレ、食堂など案内板を表示して変わりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は自由に居心地のよい場所に座られ、気の合ったもの同士がゆっくり話されるように環境づくりをしている。日により座る場所を変え見える景色を楽しめるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを準備していただき自宅に近い居室づくりに努めている。飾りつけも本人の好みで写真や置物を配置されえている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が安全にできるような手すりの設置や案内板の表示がある。日時がわかるように時計やカレンダーが配置している。避難口や通路等には障害とならないよう整理整頓に努めている。		